



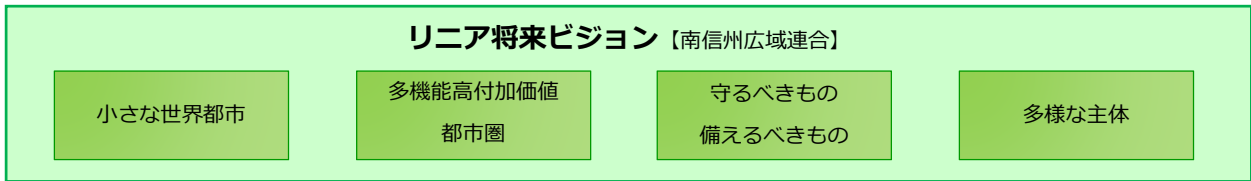
概要

南信州広域連合では、リニア時代を見据えて、2010（平成22）年11月に、「リニア将来ビジョン」を策定し、目指すべき地域像を明らかにしました。

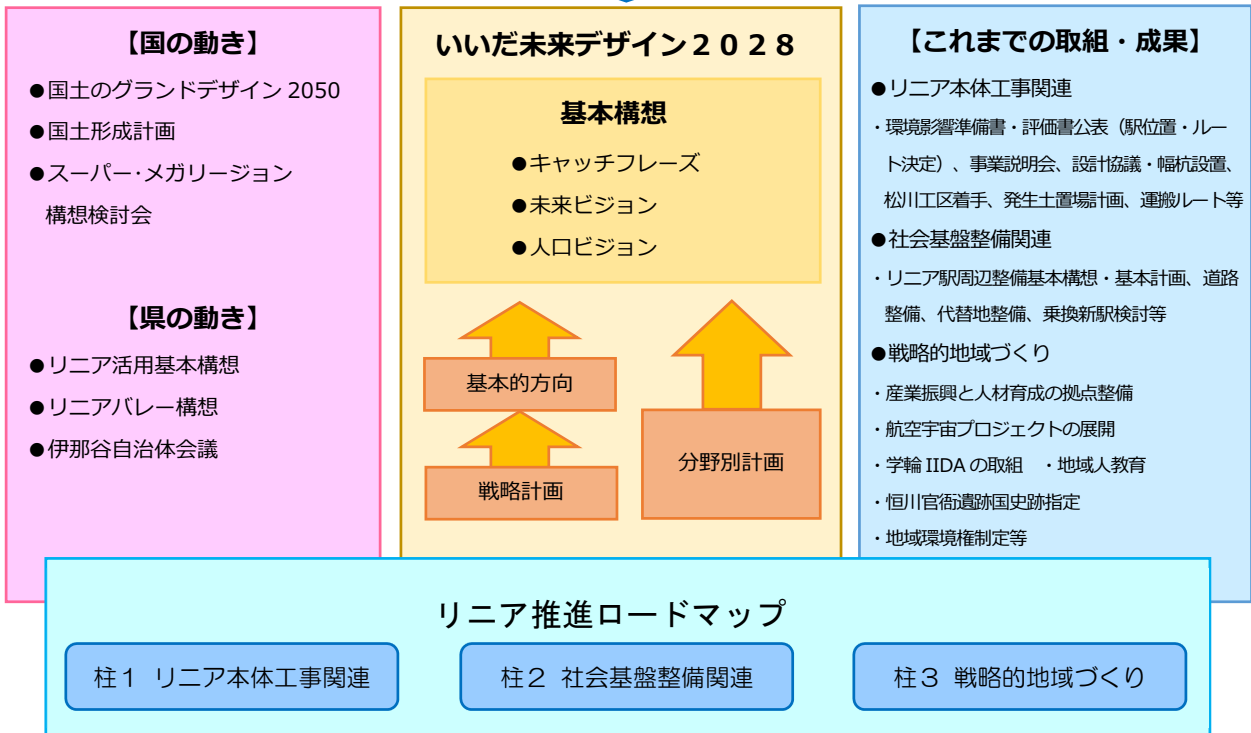
この地域像の実現に向けては、リニア効果を活かすための取組を全市的に明らかにするための工程表を示し、開業に向けた準備が滞りなく進められることが必要であることから、2013（平成25）年4月に「リニア推進ロードマップ」を策定しました。

今回、2017（平成29）年度からスタートした「いいだ未来デザイン2028」（飯田市総合計画）の策定、また国・県の動きや計画等も踏まえ、「リニア推進ロードマップ」を見直しました。

「リニア推進ロードマップ」は、推進期間をリニア開業翌年の2028年までとし、「リニア本体工事関連」「社会基盤整備関連」「戦略的地域づくり」という3つの分野で、より効果的な推進が図れるように、「いいだ未来デザイン2028」戦略計画と連動させて取り組みます。



目指す地域像の具現化



※基本的方向…基本構想の実現に向けて、前期・中期・後期の4年単位で戦略的かつ重点的に取り組むもの

※戦略計画…基本的方向の実現に向けて、毎年、具体的に取り組むもの

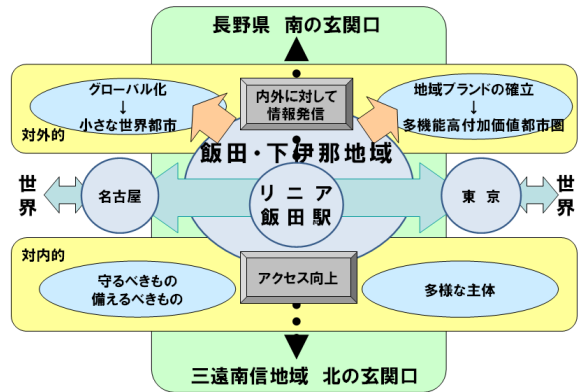
※分野別計画…各分野において総合的に取り組むもの（地域経済活性化プログラム、観光振興ビジョン、土地利用基本方針、駅周辺整備基本計画、飯田市教育振興基本計画等）

1 リニア将来ビジョン

リニア中央新幹線の飯田駅の設置を見据えて、飯田下伊那地域は地域の外と内に対してそれぞれ目指す地域像を次のとおり明示し、まちづくりを進めます。

1 対外的に目指す地域像

飯田下伊那地域が、外来者の舞台になることや地域外に情報を発信することにより、日本のモデル的事業の展開や世界で誇れるような地域になることを目指します。



グローバル化（国際性）～小さな世界都市へ～

リニア中央新幹線の実現は、国内はもちろんのこと、海外との繋がりもこれまで以上に高まり、グローバル化を促進させます。このグローバル化と人のつながりを大切にする風土を活かして小さな世界都市を目指します。

地域ブランドの確立～多機能高付加価値都市圏へ～

リニア中央新幹線の開通により多くの人と情報が往来します。このことは、飯田下伊那地域として、地域ブランドを確立することの重要性が増すことを意味します。そこで、飯田下伊那地域の地域ブランドを確立し、先駆的なモデル都市になるような多機能高付加価値都市圏を目指します。

2 対内的に目指す地域像

リニア中央新幹線の開通による地域の変化には、地域が主導権を持つて対応することが重要です。先人が培ってきた文化や伝統を守りながら、今後も飯田下伊那地域の住民が、地域のことを自分たちで考えるまちづくりを進めます。

多様な主体

飯田下伊那地域に今も残る「結い」の精神を大切に、今後も住民が自ら活躍する地域、多様な主体が活躍する地域を目指します。

守るべきもの、備えるべきもの

「守るべきものは守って未来に伝え、備えるべきものは備えていく」という理念に基づいた地域づくりを目指します。

2 国土形成計画とスーパー・メガリージョン構想検討会

リニア中央新幹線は、その開業によって、三大都市圏が約1時間で結ばれ、世界からヒト、モノ、カネ、情報を引きつけ、世界を先導するスーパー・メガリージョンが形成されることが期待されており、国土形成計画（平成27年閣議決定）においても、その効果を最大化し、全国に波及させるための取組の必要性が示されています。こうした経緯を踏まえ、国・地方公共団体・経済団体の共通のビジョンの構築を図るべく「スーパー・メガリージョン構想検討会」を、2017（平成29）年9月に設置しました。

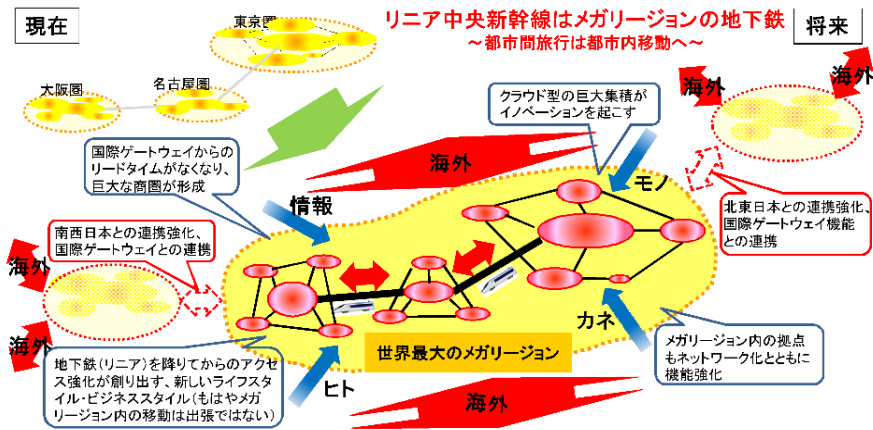
2018（平成30年）夏頃に中間とりまとめ、2019（平成31）年夏頃に最終とりまとめを行うことを想定しています。

【論点1】経済・産業構造や、人々の暮らし、価値観等が今後大きく変わっていく中で、リニアやその他の高速交通ネットワーク（新幹線、高速道路、航空等）等の整備によって、交流・対流に要する時間の劇的な短縮が、ビジネススタイルやライフスタイルにどのような影響を及ぼす可能性があるのか。

【論点2】論点1において明らかにされるリニア等の整備効果を「引き出す」ために、各地で共通して取り組むべきことは何か。

【論点3】論点2を踏まえ、論点1において明らかにされる効果を「引き出す」ための国土デザイン、地域デザインの基本的方向をどう設定すべきか。

※中間駅を中心とする地域の地域づくりで目指すべき基本的な方向はどうか。特に、中間駅を中心とする地域のプロモーションや地域ブランディングなどを進めていくためには、どのような要素に着目すべきか。

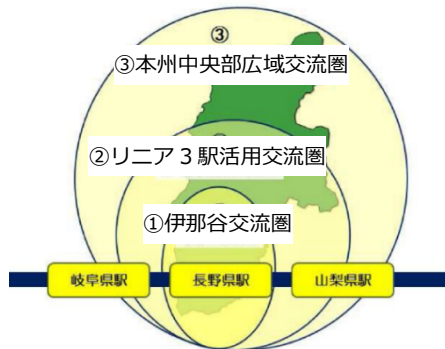


3 長野県リニア活用基本構想 (長野県 2014 (平成 26) 年 3 月策定)

リニア時代を見据えた地域づくりの指針であり、リニア整備の効果を地域振興に活かすための取り組みなどをまとめています。

リニア中央新幹線による様々なインパクトを享受するため、下図「3つの交流圏構想」を掲げており、特に「伊那谷交流圏構想」は地域振興だけでなく基盤整備の方針についてもまとめています。

3つの広域交流圏構想のイメージ



伊那谷交流圏構想 (項目抜粋)

- | |
|--|
| <p>「地域振興」</p> <ul style="list-style-type: none"> I リニアを活かした産業振興 II 信州暮らしの魅力向上 III 広域観光の推進 <p>「基盤整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> IV 魅力ある駅空間の創造 V 良好なアクセスの確保 |
|--|

4 リニアバレー構想 ～信州・日本の伊那谷から世界の INA Valleyへ～ (リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議 2016 (平成 28) 年 2 月策定)

- ・リニア活用基本構想を踏まえ、リニア駅の駅勢圏である「伊那谷交流圏」を今後どのように形成していくかの指針としてまとめています。
- ・リニアの整備効果を最大限に活用して、地域発展の原動力とすることで、身近になる大都市や世界の活力を引き寄せ、豊かな自然環境の中で地域も人も輝く「リニアバレー」実現を目指しています。

1 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点 ～世界とつながる～

グローバル産業や研究開発機関、航空産業クラスター、メディカルバイオクラスター*といった新たな時代の産業の集積と次世代産業の創出を進めます。

2 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点 ～日本を支える～

首都圏と中京圏の中間に位置し、リニアを活かした時間短縮効果を最大限発揮できる地の利をいかすことで、首都機能や企業の中核機能のバックアップを果たします。

3 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」 ～ここで豊かに暮らす～

都市圏への通勤や二地域居住、週末農業など新たなライフスタイルを提案するとともに、豊かに暮らすための地域づくりや魅力ある自然環境の保全と景観の形成を進めます。

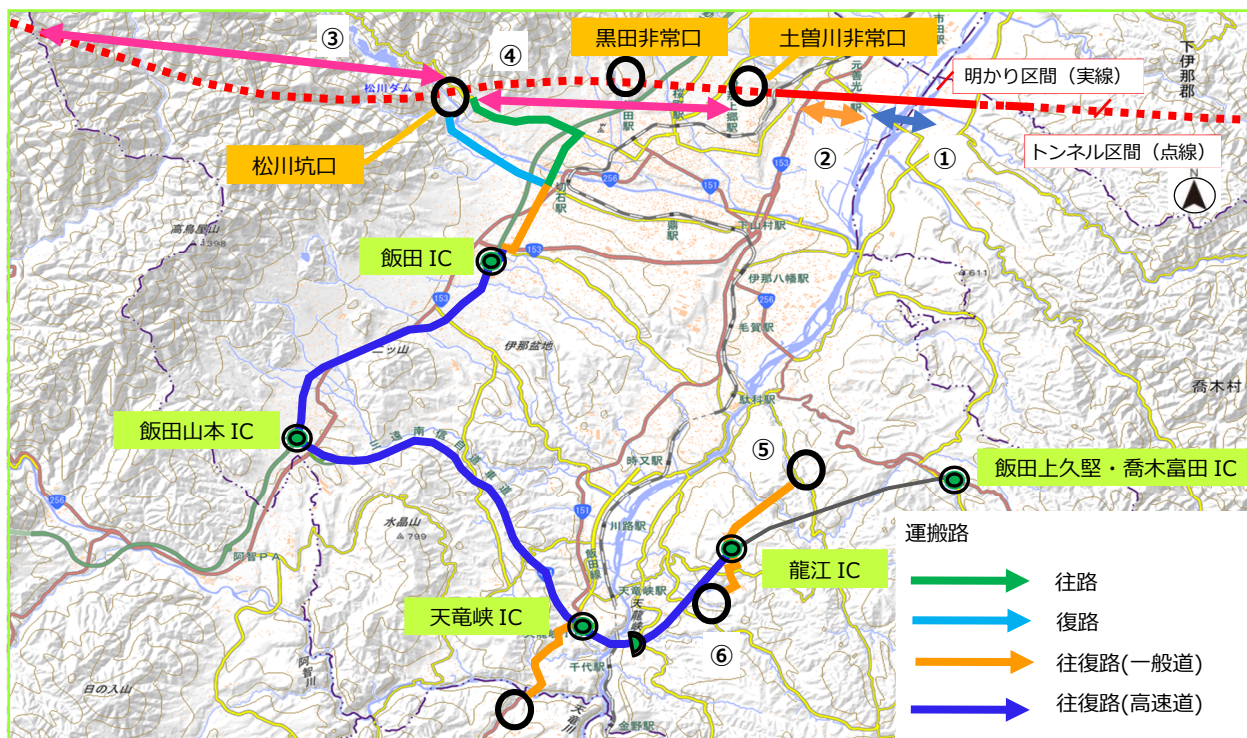
4 世界から人を呼び込む感動フィールド ～ここでふれあう～

インバウンドも含めた広域観光の促進により交流人口を拡大させるため、美しい信州の原風景や文化を活かした広域観光ルートづくりや体験型観光の促進を図ります。

柱 1. リニア本体工事関連

リニア中央新幹線の早期開業に向けて、建設主体であるJR東海による本線工事に協力することを目的とする事業全般を総括するものであり、関係する地域、長野県をはじめとする関係機関と連携して実施します。推進に当たっては、住環境への配慮を最大限に求める取り組みも合わせ、関係するJR東海、長野県、飯田市が連携を図りながら、地権者、地域との合意形成のもと行っていきます。

1. リニア本体工事関連



<p>明かり区間 高架橋 (①) 駅部 (②)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「高架橋区間」は、2018 (平成 30) 年 1 月より幅杭設置が始まり、2018 (平成 30) 年度は用地測量、物件調査を行い、2019 (平成 31) 年度より用地取得手続きを進めていく予定 ・「駅部区間」は、概ねの範囲で幅杭設置が完了し、用地測量、物件調査を開始 2018 (平成 30) 年度第 3 四半期より用地取得手続きを進めていく予定
<p>トンネル区間 中央アルプストンネル (③) 風越山トンネル (④)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中央アルプストンネル松川工区は、2018 (平成 30) 年 2 月に準備工事に着手。風越山トンネル黒田工区は 2019 (平成 31) 年度より準備工事に着手予定。両工区共に 2019 (平成 31) 年度末より本格掘削が始まる予定
<p>発生土置き場 下久堅小林 (⑤) 龍江番入寺 (⑥)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下久堅小林地区では、測量・地質調査が終了し、具体的な造成計画を検討中 ・龍江番入寺地区では、今後、測量・地質調査が始まる予定

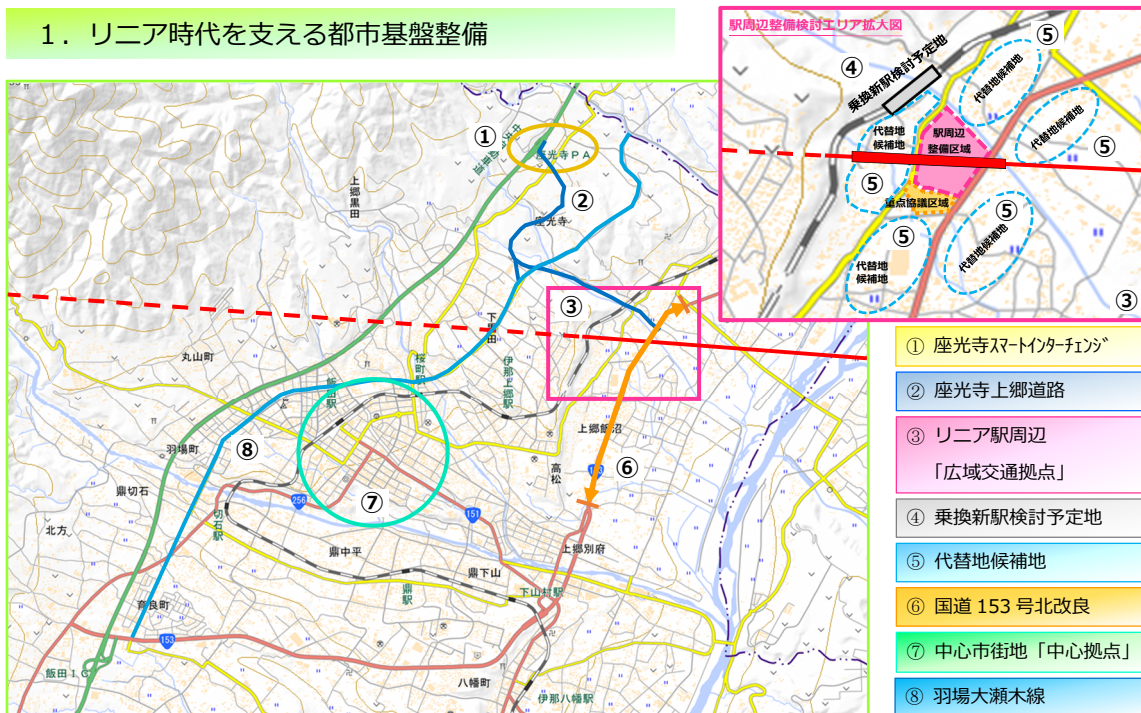
2. 地域の自然・住環境への配慮

<p>環境へ配慮した 工事計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全計画に基づく環境保全措置の実施 ・環境影響評価書事後調査・モニタリングの実施及び調査結果の速やかな公表と地域との情報共有 ・発生土運搬路は高速道路の利用を主体とし、住民生活への影響を低減 ・関係地区の住環境への影響を低減するために、関係地区と協議し、工事用車両の運行等に関する確認書を締結 ・高架橋区間における防音防災フードの整備を、長野県の協力を得ながらJR東海へ要請。 ・住環境への影響 (運搬路・地下水水資源・地盤沈下等) に配慮した、風越山トンネル工事計画検討 ・発生土置き場の造成完了後の管理についての調整 ・環境影響を確認し、必要に応じて環境測定等を実施 ・その他
-------------------------	---

柱 2. 社会基盤整備関連

長野県をはじめとする関係機関と連携しながら、リニア開業のプラス効果を広範囲に拡大するための交通ネットワークの整備や駅周辺の社会基盤の整備を行う事業全般を総括するものです。

1. リニア時代を支える都市基盤整備



「信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口」(③)

- ・ 「信州、伊那谷らしさ」が感じられ、地域の住みやすさに配慮した駅の魅力づくり
- ・ リニア駅周辺整備デザイン会議や市民ワークショップ等を中心に合意形成を進め、2018（平成 30）年度末までにリニア駅周辺整備基本設計を策定

駅勢圏拡大に向けた道路ネットワークの強化(①、②、⑥、⑧)

- ・ リニア整備効果が広域的に波及できるように、座光寺スマートインターチェンジ、リニア関連道路、三遠南信自動車道を基幹とする良好な道路ネットワークの構築

リニア時代を見据えた良好な土地利用の推進(③、⑦)

- ・ 適正な土地利用と良好な景観保全に向けた制度や計画づくりの推進
- ・ 「中心拠点」と「広域交通拠点」の都市機能を検討し、立地適正化計画を策定

二次交通構築と持続可能な地域公共交通実現(④)

- ・ リニア利用者の利便性を高め、より広域的にリニア駅利用が可能となる二次交通の整備について JR 乗換新駅の設置を含めて検討

リニア時代を見据えた ICT 活用と基盤整備

- ・ 地域の課題解決に向けた ICT 活用の戦略について、専門家の知見や技術を活用し研究

2. 地元地域の生活環境・暮らしへの配慮

地域の生活環境・暮らしへの配慮

- ・ 地域コミュニティを維持できるように生活道路やコミュニティ活動の場を整備
- ・ 生活環境への影響を回避・低減できるように事業者や工事関係者と随時調整

リニア事業に関連する代替地の整備(⑤)

- ・ 移転対象者の移転先を確保できるまで、関係機関と連携して責任をもって対応
- ・ 用地関係者組合を設立し、土地評価協議を実施
- ・ 測量調査を実施し、代替地整備計画を策定

柱3. 戦略的地域づくり

平成 27 年閣議決定された「国土形成計画」において、リニアによって三大都市圏が一体化し、世界からヒト、モノ、カネ、情報を引きつけ、世界を先導する「スーパー・メガリージョン」の形成が期待されています。また、知的対流（ナレッジ・リンク）の形成・拡大により、スーパー・メガリージョン内外のヒト、モノ、情報の高密度な連携から、高度な価値創造が行われる可能性があり、さらに、リニア中央新幹線中間駅の活用により、これまで大都市から短時間でアクセスが困難だった地域と大都市との間の対流が活発になり、都市生活と大自然に囲まれた環境が近接した新しいライフスタイル（二地域居住を含む）や、大自然の中での企業立地が実現する可能性があります。

中間駅となる飯田市は、リニアの整備効果を広く波及させるため、「当地域に息づく文化・歴史・自然」と「高度な都市空間」との対流を促進する「田園型の学術研究都市づくり」を進め、知の創発拠点を結びナレッジリンクの一翼を担えるまちづくりを推進していきます。

産業

若者が帰ってこられる産業をつくる

長野県リニア活用基本構想

I

リニアバレー構想

1・2

※リニア活用基本構想とリニアバレー構想の詳細は P3 参照

<戦略（考え方）>

- 地域産業の持続的発展に資する研究開発力の強化を図るとともに、新産業の創出、地域産業の高付加価値化への挑戦を支援します。
- 長野県や南信州広域連合などと連携協調し、地域の産業拠点としての「産業振興の知の拠点」整備を推進します。
- 地域産業の将来を支える担い手・起業家の育成に取り組みます。

<進捗状況確認指標>

指標名	基準値	実績値	目標値
学卒者の地域内回帰・ 定着率	38.9% [2014(平成26)年度]	43.2% [2017(平成29)年度]	50.0% [2019(平成31)年度]

<主な取組>

- ◆ 「新たな産業振興の拠点」の形成
 - ・ 様々な「知」が集積する産業振興と人材育成の拠点の形成
 - ・ 「信州大学航空機システム共同研究講座」の運営を担うコンソーシアム（共同事業体）の機能強化
 - ・ 南信州キャンパス実現に向けた取組の検討
 - ・ 公的試験場としての機能強化
- ◆ 新たな産業分野、地域産業の高付加価値化への挑戦
 - ・ 飯田航空宇宙プロジェクトの取組支援
 - ・ 医療福祉現場ニーズに応じた製品開発や、健康食品など食品産業の新商品開発と販路拡大
 - ・ ものづくりデザインを意識した製品づくりによる高付加価値化
 - ・ 森林認証による南信州の木のブランド化の推進を支援、市場流通の拡大に向けた地域産材の活用を促進
 - ・ 農畜産物の生産基盤を強化、新マーケットの開拓を推進によるブランド力の向上
- ◆ 地域産業の担い手確保
 - ・ 高校生と地元企業の結びつきをいっそう深める交流型のモデル事業実施
 - ・ 新規就農者と農家後継者の確保
 - ・ 森林整備の技術習得を通じて林業従事者の確保を図りつつ、森林を地域で守り活用する活動支援
 - ・ I - P o r t の運営によりビジネス支援の推進
 - ・ 若者等の起業支援において空き店舗の活用の推進
 - ・ 中小規模事業者の事業承継について、関係機関と連携して研究
- ◆ 産業用地の整備と戦略的な企業誘致の推進
 - ・ 龍江インター産業団地の一部造成
 - ・ 企業誘致による新規立地を促進し、既存企業の事業拡大支援
- ◆ 地域の産業を支える研究開発機能の拠点施設整備
(南信州広域連合「基本構想・基本計画」より)
- ◆ 専門的な人材を輩出する高等教育機関整備
(南信州広域連合「基本構想・基本計画」より)
- ◆ 大都市圏企業の BCP に対応するバックアップ機能の確保

＜戦略（考え方）＞

- 「伊那谷の自然と文化」をテーマとした学術研究、教育普及、保存継承、活用創造の取組を、行政・教育機関の連携と、市民研究団体及び地域組織等との協働により、総合力を発揮して推進します。
- 「地域振興の知の拠点」の形成を目指します。

＜進捗状況確認指標＞

指標名	基準値	実績値	目標値
調査研究報告書等の 発刊件数	16件 [2013～2015 (平成25～27)年度 平均]	(見込み8件) [2017(平成29) 年度]	18件 [2020年度]
教育普及事業延べ 参加者数	46,277人 [2013～2015 (平成25～27)年度 平均]	—	48,100人 [2020年度]
指定等文化財の累計	174件 [2015(平成27)年度]	(見込み175件) [2017(平成29) 年度]	184件 [2020年度]
美術博物館来館者数	50,910人 ([2013～2015 (平成25～27)年度 平均]	(1月末時点 38,389人) [2017(平成29) 年度]	53,500人 [2020年度]

＜主な取組＞

- ◆ 「伊那谷の自然と文化」への玄関口 飯田市美術博物館の魅力度アップ
 - ・美術博物館開館30周年に向けて、博物（自然・人文）分野の常設展示をより魅力あるものにリニューアルする取組を推進
 - ・「風越山」の白山信仰 開山1300年を記念する特別陳列を風越登山マラソンなど関連事業と連携して実施
- ◆ 国指定の史跡名勝の保存・整備・活用
 - ・「史跡 恒川官衙遺跡」について、史跡公園の整備に向けた公有地化、発掘調査、恒川清水エリアの基本設計業務等を推進
 - ・「史跡 飯田古墳群」について価値と概要の情報発信、保存活用計画の策定
 - ・「名勝天龍峡」の価値と魅力を発信するガイダンス施設の整備に向けた取組推進
- ◆ 人形劇の世界都市としての推進力・求心力の向上
 - ・飯田の「見る・演じる・支える」という特長や日本の人形劇文化を広く発信し、人形劇の世界都市としての存在感を高める
 - 「世界人形劇フェスティバル」開催
 - AVIAMA（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を飯田で開催
 - 人形とけい塔を、市民によるデザイン選定と募金活動に基づき整備
 - シャルルヴィル・メジエール市との友好都市提携30周年を記念する事業の実施
- ◆ 「地域振興の知の拠点」の形成に向けた取組の推進
 - ・新たな価値を創造・発信する「地域振興の知の拠点」の形成に向けた構想づくり
- ◆ 国際大会が開催できるスポーツ施設整備
 - (南信州広域連合「基本構想・基本計画」より)
 - 南信州の温泉を活かし、スポーツの国際大会や一流アスリートの合宿の誘致

観光

人の流れをつくる（観光・交流）

長野県リニア活用基本構想
Ⅱ・Ⅲ

リニアバレー構想
3・4

※リニア活用基本構想とリニアバレー構想の詳細はP3参照

<戦略（考え方）>

- この地域を訪れる人を増やすため、国内外から多くの人を惹きつける魅力づくりに取り組みます。
- 地域の魅力をさらに磨き上げて地域ブランドを構築するとともに、地域の魅力をプロモーションします。

<進捗状況確認指標>

指標名	基準値	実績値	目標値
休日滞在人口率	1.44倍 [2014(平成26)年度]	—	1.50倍 [2019(平成31)年度]

<主な取組>

- ◆ 「結いのまち」飯田においてなんしよ
 - ・地域資源を活用した新たなツアーを地域との協働により造成
 - ・インバウンド観光の推進
 - ・天龍峡温泉交流館をはじめとする様々な拠点（資源）を結びつけた広域的な周遊プログラムの構築の推進
 - ・道の駅遠山郷において体験型プログラムなどをワンストップで提供する体制の構築を推進するとともに、道の駅を核とした遠山郷の一体的な観光振興の推進
 - ・南信州版DMOの実現
- ◆ 地域ブランドの構築と飯田の魅力が伝わるプロモーション
 - ・「飯田らしさ」が印象に残るようなブランディング・プロモーション
- ◆ 国際レベルの会議を開催できるコンベンション施設整備
 - （南信州広域連合「基本構想・基本計画」より）
 - 国際会議や企業研修などMICEの誘致

地域

人の流れをつくる（移住・定住・二地域居住）

長野県リニア活用基本構想
Ⅱ・Ⅲ

リニアバレー構想
3

※リニア活用基本構想とリニアバレー構想の詳細はP3参照

<戦略（考え方）>

- リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の全線開通による新しい交通網時代を見据え、世界に誇れる多様なライフスタイルの提案により、移住者の増加を目指します。
- リニア中央新幹線長野県駅を見据えたまちづくりにおける、中心拠点としての中心市街地の魅力づくりを推進します。

<進捗状況確認指標>

指標名	基準値	実績値	目標値
休日滞在人口率	1.44倍 [2014(平成26)年度]	—	1.50倍 [2019(平成31)年度]

<主な取組>

- ◆ 飯田だから実現できるライフスタイルの提案
 - ・移住相談から定住まで一貫して支援するワンストップ窓口の構築
 - ・南信濃及び千代地区をモデル地区として、地域と一体となった移住希望者の受け入れ
 - ・飯田ならではのライフスタイルを「お試し住宅」の活用を通じて提案
 - ・豊かな自然環境を活かし「選ばれる保育園」となる研究を深めることによる移住定住の促進
 - ・各地区まちづくり委員会等と協働した空き家の活用の促進
 - ・いいだ型自然保育・幼児教育の質を高め、飯田での子育てに幸せを感じることができるよう魅力づくりの取組
- ◆ 魅力的な中心拠点の形成
 - ・中心市街地活性化基本計画の策定のなかで、中心市街地の機能と役割や、リニア時代を見据えた課題を地域と連携して整理
 - ・親子連れをターゲットとしたまちなか回遊事業を効果的に実施

工程表

取組の柱	項目/年度	2017	2018	2019~2026	2027	2028		
柱1 リニア 本体工事 関連	住環境保全	環境アセス事後調査・モニタリング調査（水資源・騒音・振動・大気質等） 工事影響を低減する取り組み：関係地域との合意形成・確認書締結・工事連絡調整				リニア 中央 新幹線 開業		
	中央アルプストンネル（松川）	2018/2/15準備工事着手		トンネル掘削工事				
	風越山トンネル（黒田）	設計・地元説明等		準備工事 ⇒ トンネル掘削工事				
	風越山トンネル（土曾川）	地質調査・施工方法検討・設計・地元説明等		準備工事 ⇒ トンネル掘削工事				
	発生土置き場（下久堅）	設計・地元説明等		準備工事・発生土受入				
	発生土置き場（龍江）	設計・地元説明等		準備工事・発生土受入				
	駅部区間	幅杭	用地物件調査	用地協議	工事着手			
	高架橋区間	幅杭	用地物件調査	用地協議	工事着手			
柱2 社会基盤 整備関連	リニア駅周辺整備	基本設計	用地物件調査	実施設計	基盤工事	建物工事		
	座光寺SIC	測量・設計	用地物件調査	用地協議	2021年度 供用開始			
	国道153飯田北改良	用地物件調査	測量・設計	用地協議	工事着手			
	座光寺上郷道路	用地物件調査	測量・設計	用地協議	工事着手			
	県道市場桜町線	測量・設計	用地物件調査	用地協議	工事着手			
	JR乗換新駅	設置要望 → 設計協議	→ 用地調査 →	用地取得 → 工事				
	用地関係者組合	準備会	組合設立	協定締結				
	代替地登録	代替地登録受付		登録地閲覧				
	代替地整備	測量・設計	用地協議	申込受付・決定	移転可能			
	羽場大瀬木線	工事		2019年度 供用開始				
	土地利用計画 （まちづくりの方針）	検討協議・素案	検討・地元提示					
	立地適正化計画	調査検討・素案	協議・修正案	審都市議 会 審				
	用途地域等都市計画	検討・素案	協議・修正案	審都市議 会 審				
	2次交通	交通結節点の形成・機能強化 交通ネットワーク形成検討 地域公共交通の課題への対応			具体化に向けた検討			